

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23年 12月 7日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100090		
法人名	社会福祉法人 正仁会		
事業所名	グループホーム なごみの郷 亀山		
所在地	広島市安佐北区亀山3-4-12 (電話) 082-819-3725		
自己評価作成日	平成23年10月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3490100090&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成23年11月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は全職員がグループ理念をもとに事業所独自の具体的な目標をつくり、地域に密着した介護サービスの提供に取り組んでいる。公民館を拠点に活動している複数のサークルやボランティアの定期的な訪問があり、その際には家族・地域と共に支援を踏まえ、家族様やご近所の方々にも案内をし、協力を頂いている。「介護は愛」との共通認識を持ち、「その人を知る、その人を知りたいとの思いで寄り添う」姿勢で人生の最終ステージにおられる方々の第二の家族を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所の属する社会福祉法人と同一グループ内の医療法人とは強固な連携関係にあり、「医療と介護の切れ目の無い連携」を掲げている。それは特に重度化や終末期において医療との連携により、可能な限り本人・家族の希望に沿った『最期までその人らしく過ごしてもらう支援』を全職員一丸となって取り組むことで実践されている。地域との交流は非常に活発で、職員自ら出向いて関係を築いた、各種サークルやボランティアの訪問が年間を通じてあり、利用者の生活のリズムと励みになっている。事業所独自の取り組みとして「ヒヤリハット集計」がリビングにグラフとして掲示されており、事故発生を未然に防ぐ強い意思表示となっている。又「貴方の願いをかなえます」の誕生日企画は、職員や家族の連携により実現し、利用者・家族の喜びのみならず、職員の喜び・達成感にもつながっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	医療と介護の切れ目のない連携を第一に考え、利用者及び家族、地域住民の皆様安心して提供し続けることを理念としている。グループ理念とリンクした事業所独自の理念（5項目）を職員が作成し、中でも地域密着型サービスを踏まえた項目である「地域と共に生きがい探し」を目指し開設当初からの訪問に加え、職員自らが公民館等を訪問し年間14サークル延べ122名の慶福訪問の開拓を実践している。	事業所独自の理念（5項目の指針）が全職員参加で作成されており、会議や朝礼時に確認している。又それらをより具体化し実践につなげるため、事業所としての、月度行動目標が毎月設定されている。更に全職員が個人別目標を掲げ、月々その達成度合いを自己評価したものを、職員全員が閲覧できるようにしている。理念の共有と実践の為の仕組みが出来ている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	中学校の職場体験や小学生及び小学校お茶会児童の訪問を受け入れている。また、地域の各種ボランティアの受け入れや、公民館を拠点に活動している複数のサークルの定期的な訪問の際には隣近所に声を掛け交流している。平成23年度より町内会に入会、廃品回収の協力や清掃活動に参加し地域の方が立ち寄られる機会が増えている。	地域との結びつきは、事業所開設当初から全職員が精力的に取り組んだ、公民館を通じての各種サークル・ボランティアとの関係作りから始まり、現在もそれが大きな骨組みとなっている。更に近年、町内会に加入し、地域行事に参加することにより、地域の一員として受け入れられ、近隣住民との交流も深まりつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ホームの入居申し込み者が、満床の為待機中の場合、機会ある毎に支援の相談に応じている。待機中の家族に事業所内の勉強会「認知症・認知症ケア」の案内をし参加されている。認知症アドバイザーとして「認知症サポーター養成講座」の活動をしている。中学生の職場体験の受け入れをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的な会議の中でホームの状況、評価等について意見交換しサービスに反映させていくように取り組んでいる。委員の一人である事業所が位置している町内会長の尽力で今年度から町内会に入会し、より地域に根ざした事業所作りを目指しているところである。	運営推進会議は家族代表・行政担当者を始め自治会・女性会等の各方面の多くの地区代表が集い、活発な運営が行われている。交流や行事等の実施状況や事故発生内容が具体的に報告され、意見交換も活発にされている。運営委員会の開催が地域との結びつきを深め、事業所の次のステップに向けた活力となっている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議にはほぼ毎回、担当の市職員が出席されている。また、必要時において市職員と連絡をおこない、介護保険に関する事などを確認し、サービスの質の向上に繋げるように努めている。	運営推進会議にはほぼ毎回、市職員担当者の出席があり、基本的な関係は築かれている。運営上、必要な報告や確認は随時行われており、関係の維持が事業所の安定的で円滑な運営に寄与している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	十分理解している。「身体拘束等の排除の理念及び方針」を各フロアに掲示し、真摯に取り組んでいる。玄関の施錠はしていないが3階建ての為、階段への扉は電子錠になっているが、利用者の行動は制限することなく、いつでも自由に職員が付き添いフロアから出ることができる。	「利用者の尊厳」「利用者への愛」が支援の原点であり「拘束はあり得ない」が管理者の強い思いであり、それはスタッフ全員に伝えられ浸透している。「身体拘束排除の理念及び方針」が玄関に掲示されており、外部に向けての約束事、スタッフへのいましめとなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	グループホーム会議で定期的に啓発している。また、研修会にも参加し、事業所内での防止に努めている。傷、アザなどが発生した場合は、事故報告を速やかに挙げカンファレンスしている。全身の図表を作成し、傷・アザの部位を記載し「いつ発生したか」「何が原因と考えられるか」等、話し合い全職員が情報の共有をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	高齢者に関する権利擁護の研修会に参加している。また、権利擁護に関するマニュアルを整備している。該当するケースはまだない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約時には利用者や家族に分かりやすいように担当責任者から十分な説明を行い、理解・納得を得ている。契約時には契約書、重要事項説明書を読み上げ、特におこりうるリスクについては詳しく説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を1回/3ヶ月開催し、運営推進会議には家族代表に参加して頂き、意見・要望を引き出している。また、来設時には近況報告を兼ねゆっくりと会話できる時間を作り要望等が引き出せる雰囲気作りを心がけている。各フロア、玄関に苦情BOXを設けており契約時には苦情相談窓口担当者及び、外部の相談窓口の説明をしている。特に苦情はサービスの質の向上に繋げる機会と捉えている旨の説明を機会ある度に伝え要望等が伝えやすいように配慮している。	日常的には家族の面会時に、会話の中で、自然な形で希望や意見を聞きだすよう心掛けられている。運営推進会議への家族代表の参加とあわせて、3ヶ月に一度開催する家族会は、自由に発言する場となっており、出された意見・要望を運営に反映させるよう努められている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	1回/月の定期的な会議及び、ミーティング時に意見を出し合っている。出された意見は管理者から代表者にその旨伝えられている。事業所の年間事業計画は全職員の意見を反映し職員が作成したものである。	定期的に会議やミーティングが持たれており、職員が意見を出す場は確保されている。出された意見は管理者より代表者に提示され、それらの意見を反映した事業所の年次計画が作成されており、職員のやる気にもつながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各職員に担当業務（役割）を設定して、日々の業績も含め、定期的の上長と面談を行い、各職員のモチベーションの向上に繋がるように努めている。また、資格取得に向けた支援も行っている。ポイント制も取り入れており、内部研修参加時等に取得したポイント数に応じ、書物の購入や外部研修参加費用に使用できる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	等級に応じた「育成研修」が開催されている。各種研修会や、1回/月の法人勉強会に参加し、質の向上に努めている。勉強会へは公平に参加できるように勤務の調整を図っている。また、必要に応じて本部の専門職（OT、看護師）を事業所に招き勉強会を実施している。定期的に施設内での勉強会も職員の持ち回りで開いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	概ね2回/月の「慶福訪問」の際は、近隣のグループホームに案内をし、交流を図っている。また、他事業所の職員の訪問を受け入れ意見交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	相談から利用に至る過程において、本人と家族に会う機会を出来るだけ多くもち（施設見学・他のサービス利用時や自宅に伺う）担当責任者及び介護支援専門員、計画作成者が生活歴や生活状態を把握した上で不安や要望を引き出し十分に話を聴くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用初期においては、細やかな電話連絡や来設時などの報告・連絡を行うことで、良好な関係を構築できるように努めている。また、家族連携ノートを活用し、家族の不安・要望等の情報を、全職員が共有できる体制を整えている。特に要望は「サービスの質」を高める為に必要な相談と受け止めている旨を家族に伝え「相談しやすい」雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時にしっかりと話しを伺った上で、他のサービスを含め、考えられる支援について、介護支援専門員と相談しながら情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々の生活の中で、これまでの生活の継続性を重視した役割作りに努めている。ホーム全体を家族として捉え、人生の先輩として「教えて頂く」「助けて頂く」関係作りを大切にし、感謝の言葉を伝える場面を多くつくることに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	契約時には利用者に対しては、常に家族と共に支援が法人の方針である旨を伝え理解を得ている。来設時の散歩のお願いや家族への電話要望への対応のお願いをしている。また、一ヶ月の予定表（カレンダー）を渡し、行事等に参加して頂いている。今年度は「誕生日に願いを叶える」企画を家族の協力の元実施している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族のみならず、友人・知人、入居前に利用されていたサービス（通所・訪問介護等）事業所の職員も来設されている。また、なじみの美容院に家族と通っておられる方もいる。	家族や馴染みの人が訪ねてきやすい雰囲気づくりを大切にし、接遇を全職員に徹底している。また、墓参りや故郷帰宅の支援も積極的に行っており、関係継続の大きな柱となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	話し好きであったり、世話役が得意な方に協力して頂くことで、互いの存在が認識できる場面を作り、その中で支えあえるように配慮している。レク等、皆で過ごせる時間の他に、気の合った利用者同士がお茶を飲みながら、お互いの居室などで過ごせる時間が持てるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院及び転居した際も、機会をみてお見舞いがてら訪れるようにしている。また、施設イベント等を機会に、家族とも連絡をとるようにしている。退所されても、立ち寄られる家族様がおられる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で表情や言葉の中から本人の思いを把握するように努めている。更に、センター方式を一部採用し作成したアセスメント様式を活用して、本人の意向の把握に努めている。	利用者毎の気持ちや願いを記録した「私の姿と気持ちシート」が全員分作成され、共有情報としてファイルされている。利用者が気持ちや要望を言葉で表現しづらい場合においても『愛を持って接する』ことにより、表情や言葉の中から本人の思いを把握するよう努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人及び家族、サービス提供事業者からの事前面談及び随時の情報収集を元に生活歴等を把握し、その人らしい暮らしが送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	事前情報だけにとらわれず、生活の中で寄り添い、できる力を見落とさないように努めている。また、生活状況の観察及び記録を元に、カンファレンスを実施し、全職員での情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプラン作成にあたっては、まず本人、家族の意志・要望の再確認をし、居室担当職員及び他の職員の気付き（私の気付きシート）から支援経過表を作成している。日々のケア記録を併せて関係者の意見を踏まえたプランを作成している。	介護計画は3カ月ごとに見直しがされている。日々の支援の中で職員により記録された気付きシートをもとに、支援経過表が作成されており、事前に確認された本人・家族の要望を含め、関係者の意見を反映させたプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のケア記録や経過表、カンファレンス及びヒヤリハット等の記録を全職員は目を通し、情報の共有に努めている。また、記録を元にした計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者の状態に応じて、法人内に所属する作業療法士・言語聴覚士・歯科衛生士・管理栄養士などの専門スタッフからアドバイスを受けることで、柔軟に対応している。同一法人内の行事にも参加し交流を深めている。また、入院時には、家族の状況を踏まえ、職員が面会及び洗濯物の処理など行い柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティアバンク（傾聴ミミの会）の訪問が定期的であり、なじみの関係となっている。生け花クラブの先生や地域の活動サークルの訪問も定期的にある。また地域の祭りへの参加や子ども会の神輿の訪問も受け、地域とのなじみの関係作りに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的な往診及び医療機関への受診の際には職員も同行し、適切な医療が受けられるように支援している。定期的な歯科の往診があるが、これまでのかかりつけ医の受診希望者には継続して受診できるように支援している。	グループ内に医療法人があり、その医療機関との定期的な往診・受診が基本となっている。ただ専門医等の他のかかりつけ医の受診希望者についても、正確な情報を得るために職員が同行し、適切な受診ができるよう継続的な支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間体制での訪問看護事業所との連携により、定期的及び随時の相談・訪問を実施している。 個別ケア記録の他に医療連携シートを作成し、利用者の状態変化や気づきを細やかに記録し、より速やかに密な医療との連携がとれるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	24時間体制での医療連携体制は整っており、入院時においても、主治医との密なる情報交換を行い、早期退院に向けた取り組みを行っている。また、職員が交代でお見舞いに行き、環境変化へのダメージを極力軽減出来るように配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	主治医をはじめとした医療との連携により、最期までその人らしく過ごせるように配慮している。また、本人が安心、安全に過ごせるために、ホームが対応しうる支援方法を踏まえ、方針をスタッフと話し合い、全員で共有している。基本的には本人、家族が希望すれば施設で看取りを行うようにしている。	重度化した時、終末期を迎える時、本人家族の意向を最大限に取り入れ「最期までその人らしく過ごしてもらおう」を基本的な考え方としている。対応し得る方策・方針をスタッフで話し合い共有し、看護師・医師との連携の下「医療と介護の切れ目のない連携」が実践されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時については、マニュアルに沿って対応している。AED導入に伴い、救命処置訓練を実施している。応急手当や初期対応については、必要に応じて、随時に訪問看護事業所からの指導を仰いでいる。また、吸引器・携帯酸素の使用法の訓練を定期的に受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	2回/年（夜間時を含む）の利用者が参加しての避難訓練を実施しており、消火器の使用法や避難経路の確認及び誘導について全職員が把握している。避難訓練の際は、近所にお知らせし、関心を持って頂くように努めている。また、運営推進会議を通じて、災害時における地域との協力体制は確保できている。	夜間想定を含め、年2回の消防訓練が実施されている。利用者も参加し、消火器の使用法や避難訓練がされており、スプリンクラーの設置も含め、今できる対策がされている。尚、町内会長・自治会長・消防団員等の地域の協力体制が確認されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の尊厳を大切にし、受容と傾聴を常に心掛けるように職員に啓発している。「もし自分だったら」「もし自分の家族だったら」の視点にたったケアが基本であることを繰り返し教育し職員の意識は統一されている。また、利用者への接遇面での反省や思いを文章化し全職員が提出し話し合いを行っている。帳簿類については、個人情報保護の観点に基づき適正な取扱いをしている。	「お世話してあげているではなく、学ばせてもらっている」の姿勢が「人格の尊重」に結び付くことを、日々の支援の中で、職員に伝えられ徹底されている。また、良いサービスを提供するためには職員間の人格尊重も不可欠として指導されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自然な感情や思いが表出できるように個々に合わせた支援をしている。出来ることは個々に応じた声掛けにてして頂き、出来ないところをさりげなくお手伝いするよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の流れは概ねあるが、本人のペースや要望に添うように支援している。起床・就寝時間、食事の時間、入浴時間も希望があれば出来るだけその思いに添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	基本的には、出張理美容サービスを受けている。その際に希望する髪形（パーマや染め等を含む）を伺い、理美容師に対応してもらっている。本人の望むなじみの美容院に行かれる利用者もおられる。希望される利用者には化粧等をお手伝いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備から片付けまで、できることは職員と一緒に手伝っていただくようお願いしている。利用者と職員と一緒に楽しい雰囲気でする。出張食事サービスも定期的にご利用している。	業者より調理済みの食材が届けられ、盛り付けや配善、茶碗拭き等、職員と一緒に皆で手分けして準備や後片付けが行われている。 たこ焼きやお好み焼き等、出張食事サービスのメニューも楽しみの一つとなっている。 気の合う人同士の席次にも心配りがされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	外部委託による量や栄養バランスのとれた食事を提供している。また，個別に量の調整や食形態の変更などの対応を行っている。 摂取量（食事・水分）は記録している。 水分摂取量は1500～2000cc／1日を目安に確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	職員は適切な口腔ケアが及ぼす健康維持への効果を理解しており，毎食後に必ず口腔ケアを実施している。自分でできる方においても，必要に応じ後の口腔内の確認を行うことにしている。また，個別の口腔内状態，口腔ケア方法，ケア用品の一覧と，実施状況や評価の一覧を作成し，情報の共有及びケアの統一を図っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を元に，排泄パターンに添った対応ができています。また，できる限りトイレでの排泄を促している。実際にホームに入所され，おむつの使用やリハパンの使用が無くなったり，パッドの使用頻度が少なくなった利用者がおられる。	トイレ意思表示の少ない方は定期的にお連れしている。個人個人の排泄の記録を取り，排泄パターンをまず把握し，それに沿った誘導がされている。おむつやパットの使用を少なくし，トイレでの排泄を促すよう努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の予防として，個々の排便状況ならびに食事および水分摂取量と内容には常に気を配っている。また，一日の活動量も踏まえると共に，下剤使用者については排便間隔および便の性状を常に確認している。また，便秘傾向の方にはまず，運動や外気浴の支援に努め，乳製品（牛乳・ヨーグルト等）を提供し，自然排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日ごとに一応の入浴予定は決めてあるが，固辞される場合は無理な促しはしないようにし，タイミングがあれば入浴していただき，時間や曜日の変更は随時に行っている。 希望者はその都度入浴していただいている。手浴・足浴や清拭も要望や状態に応じ施行している。	入浴は週2～3回を基本としているが本人の希望で毎日の利用もあり，柔軟な運用がされている。入浴中はマンツーマンで話をしながら，コミュニケーションを図るよう努めているが，好きな歌を歌い，ゆっくり入浴する利用者もおり，個々に応じた入浴の支援がされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人一人の表情や体調を考慮し、日中の活動への支援をしている。天候の良い日は出来るだけ外気浴を兼ね散歩をしている。ソファを設置し、さりげなく休息できるように努めている。メンタル的な不安等に対しては、添い寝などを行い、安心してもらえるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は利用者の服薬目的および内容を理解しており、適切な服薬支援をしている。また、誤薬防止の観点から複数人による確認体制を徹底するように努めている。薬に関する疑問等は常に訪問看護師や薬剤師に確認するようにしている。薬の勉強会も安全対策委員会が中心になって実施しており、例えば、副作用として血圧が低下する薬を内服・使用する際は事前にバイタル測定をし必要に応じて医療との連携を図るなど薬に対する意識は高い。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人の要望や家族からの情報を元に体操や歌、パズルやぬり絵、将棋、囲碁のアクティビティーや洗濯干し、洗濯たたみなどの家事を個々の状況に応じて負担にならないように配慮しながら行ってもらっている。支援の中で新たな発見もあり要望に応じて役割りをもっていたいでいる。個別にドライブや買い物等の外出の支援もしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	普段行けないような場所への外出レクリエーションは事前に計画を立て家族に協力して頂き支援している。秋の外出レクには9家族・10名の参加があった。公民館行事等には地域の方に協力して頂き希望者が参加している。ドライブや近隣のスーパーへの買い物については要望に応じて支援している。	日常的な外出としては近隣のスーパーへの買い物やドライブが要望に応じて行われている。家族の協力のもと、季節の外出も実施されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者による直接的な金銭管理は行なわれていないが希望する購入品があれば、職員と一緒に買い物に出かけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	現在、利用者から手紙を出すことはないが電話連絡の要望にはその都度、施設の電話を使用して対応している。定期的に、県外の家族に電話をかけている利用者もおられる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者が集うリビングの採光は適切で、日中は明るい雰囲気を感じることができる。ソファ等も設置し、くつろげるスペースになっている。ホールには折々の思い出の写真や、職員と一緒に制作した季節感あふれる作品を飾っている。また、食事作りの音や匂いが立ちこめたりと、季節や生活を五感で感じ取れるように努めている。	フローリングされたリビング・廊下は広く、ゆったりと落ち着ける空間となっている。風呂・トイレも清掃が行き届き、全体的に清潔感が溢れている。フロア中央に配置されたオープンキッチンからは四方が見渡せ、開放感あるレイアウトになっている。利用者の作品は程良く配置され温かみを感じさせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各フロアとも、テーブルおよび椅子を配置したスペースが2ヶ所とソファを配置したスペースが1ヶ所あり、それぞれの入所者の思いにより、自由に過ごせるようにしている。気のあった利用者同士が差し向かいでお茶を飲みながら過ごしている場面が多々見られる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に、馴染みのある身の回り品や写真、家具等を持ってきていただくようにしている。また、状況によっては、居室環境を和室風に変更することも可能である。	各居室に清潔感のある手洗いが設備されており、鏡に向かってちょっとした化粧直しにも使え、利用者にとっては重宝なものとなっている。タンスやテーブル、思い出の写真等、利用者の好みのものが持ち込まれ、好みの部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の状況にあわせ、玄関、トイレ、廊下や風呂場に手すりを設置しており、物干し台の高さを調整するなどし、安全確保と自立への配慮をしている。定期的及び随時のカンファレンスにより、出来だけ現状を維持できるような環境作りに取り組んでいる。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームなごみの郷 亀山

作成日 平成24年 1月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	非常災害時のマニュアルは整備し訓練を実施しているが、利用者の更なる安心・安全を確保する為にマニュアルの見直しが必要である。	非常災害時の確実な利用者の安心・安全の確保	実際の非常災害時に、より早くより確実に利用者の安全を確保できるマニュアルの見直しと作成をする。	3ヶ月
2	4	運営推進会議が報告会に止まりマンネリ化している。	運営推進会議の活性化	会議内で職員等による介護保険制度等の勉強会を実施する。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。